

目録所在情報サービスの現状と課題

国立情報学研究所 学術基盤推進部
学術コンテンツ課 副課長
上村, 順一||うえむら, じゅんいち
uemura@nii.ac.jp

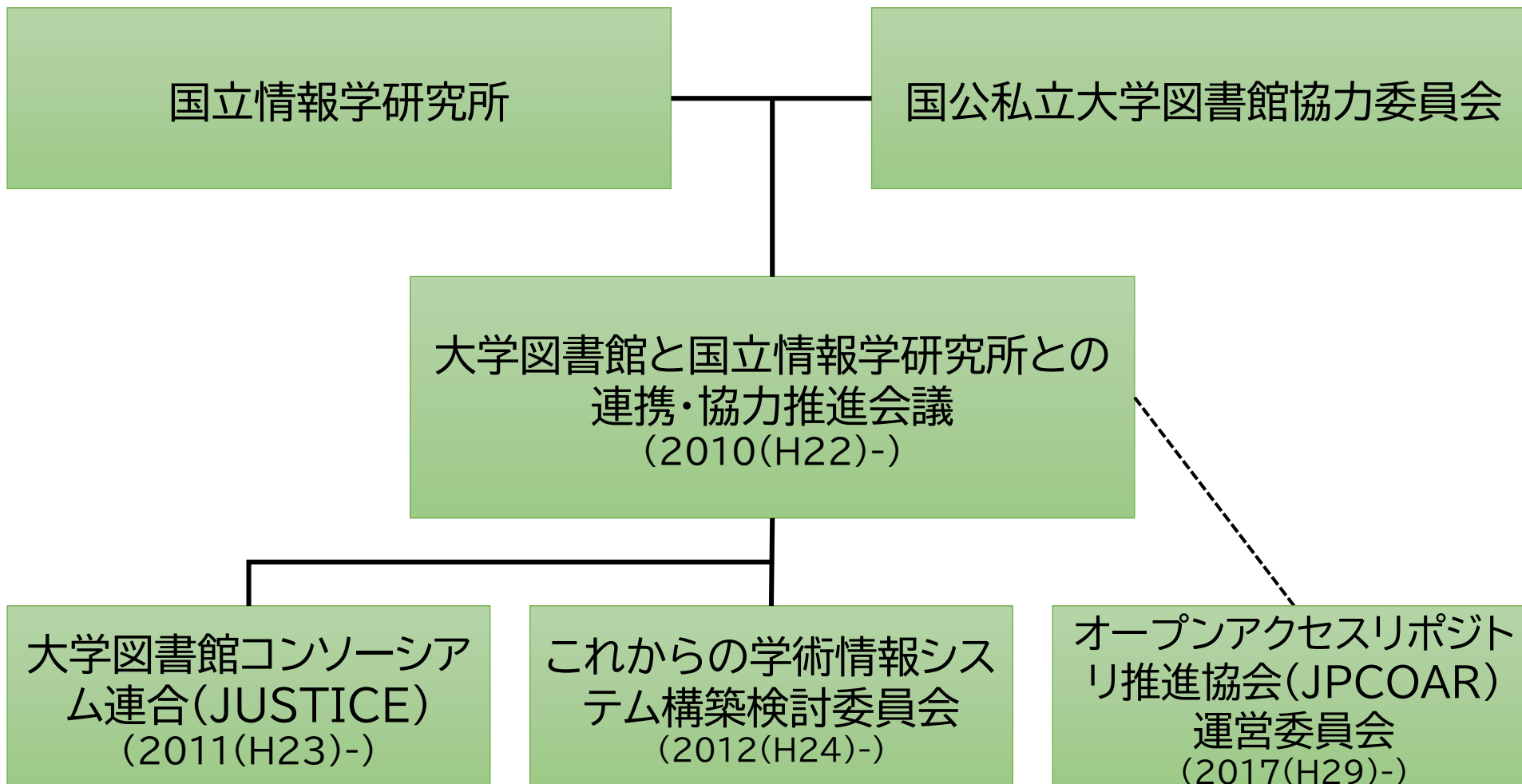
2022/11/16(Wed)
NACSIS-CAT/ILLリプレイス&電子リソースデータ共有サービス説明会

本項の内容

- 大学・研究機関との協力体制
- 目録所在情報サービス「NACSIS-CAT」と図書館間相互貸借システム「NACSIS-ILL」の現況
- システム調達に係る現在までの経緯
- 『大学図書館等と国立情報学研究所の連携による取組み』
- これからの学術情報システムの在り方について(2019)
- 「図書館システム・ネットワークプロジェクト2022」
- 新システムへの移行
- 新システムの課題
 - 記号凡例
 - 【】で囲まれた文書はQRコード貼ってあります
 - 『』で囲まれた文言は当該文書からの引用です

大学・研究機関との協力体制

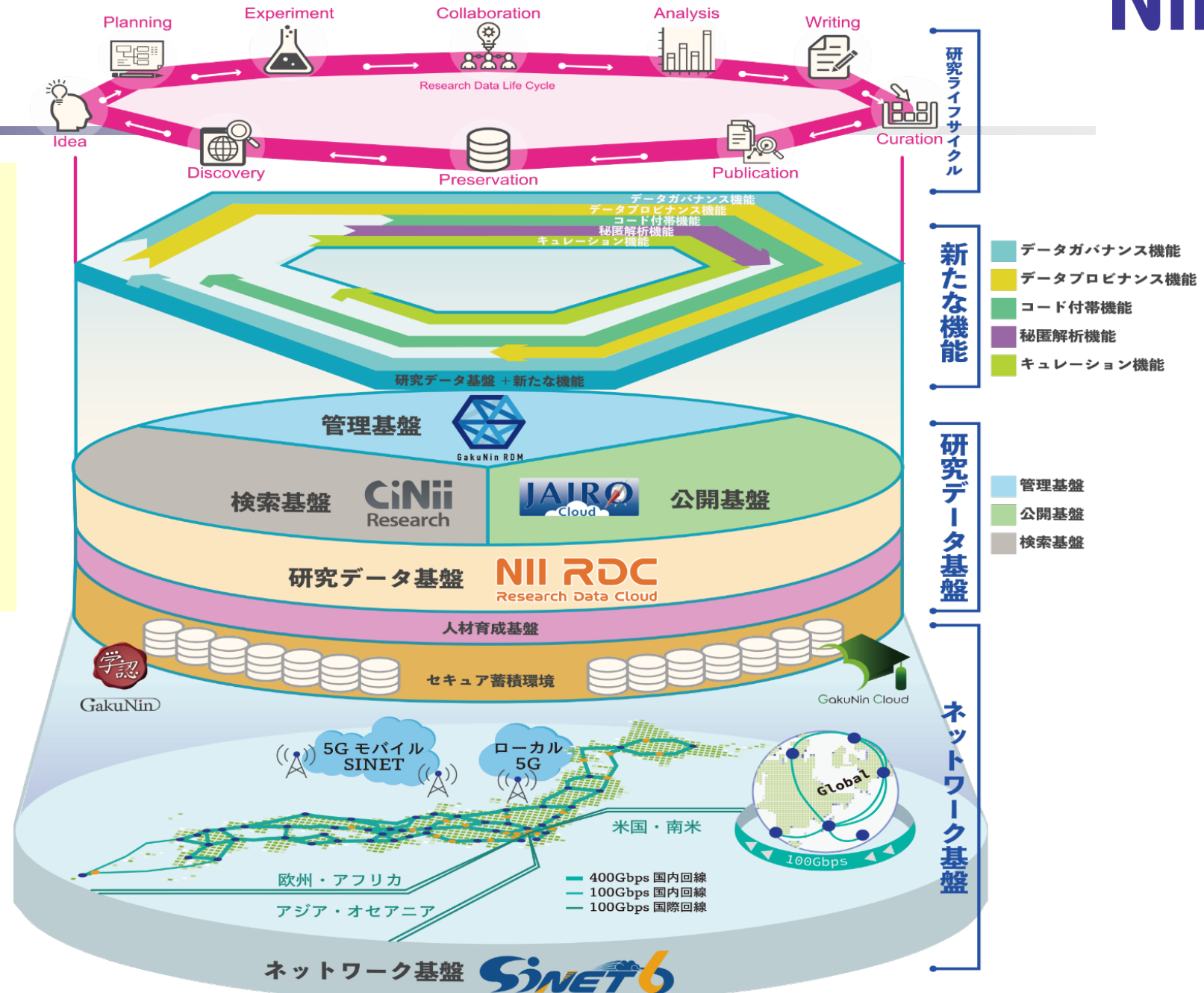
<https://contents.nii.ac.jp/cpc>



NII事業全体像

- ・ 超高速ネットワーク
- ・ NACSIS-CAT/ILL
- ・ 研究データ基盤
- ・ サイバーセキュリティ
- ・ クラウド
- ・ 認証

これらに関するサービスを提供し、全国の大学や研究機関等の研究教育環境を高度化

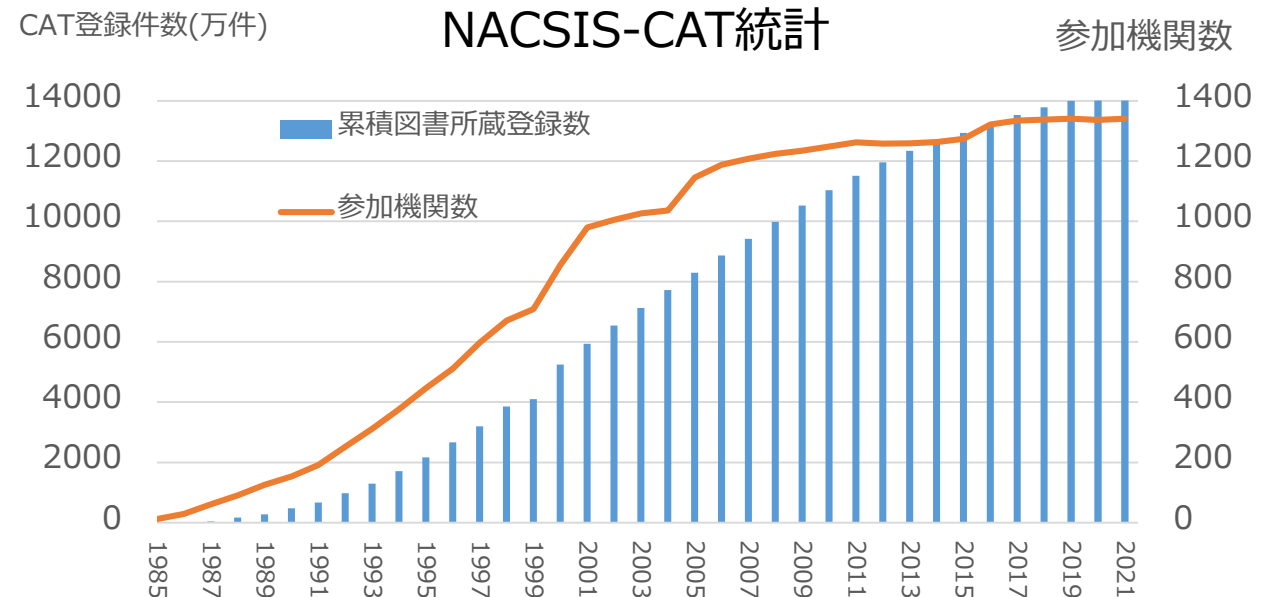


目録所在情報サービス「NACSIS-CAT」

■ NACSIS-CAT(1985(昭和60)-)

- 国内の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌情報を共同構築
- オンライン共同分担入力方式による目録システム
- 参加機関: 1,341機関
- 所蔵登録データ
 - 図書: 1億4,857万件(約8,000件増/1日)
 - 雑誌: 463万件
- 収録データはCiNii Booksで公開中

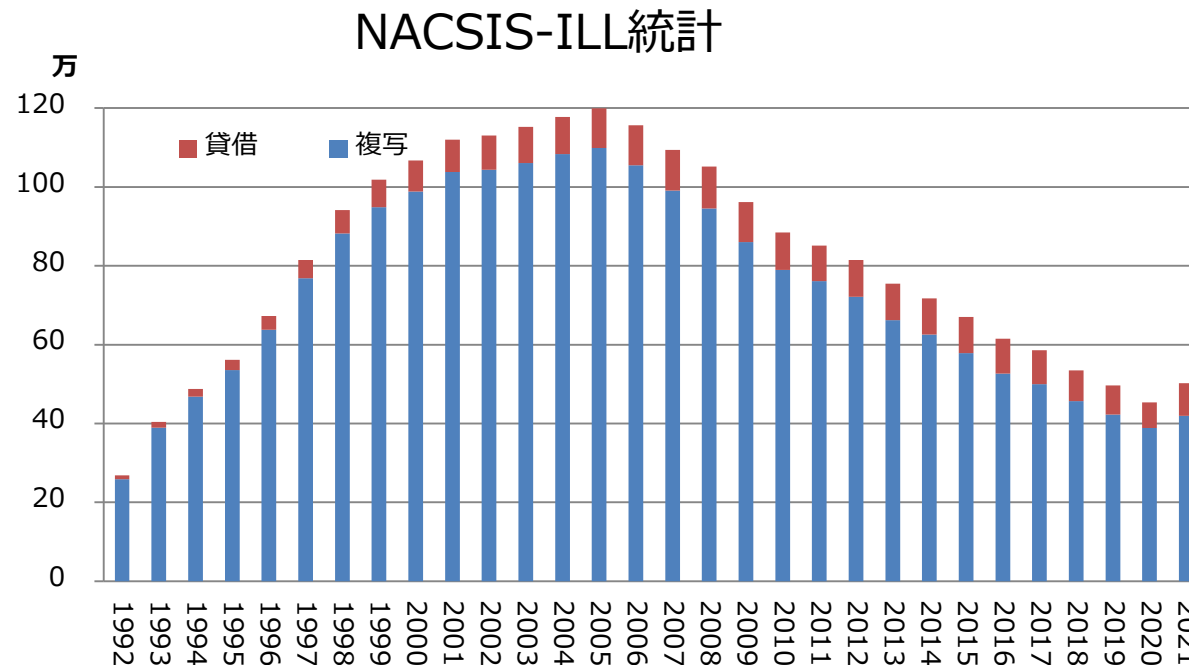
紙と電子の学術情報を
シームレスに管理できる
環境構築が課題



図書館間相互貸借システム「NACSIS-ILL」

■ NACSIS-ILL(1992(平成4)-)

- 目録システムで構築された総合目録データベースを活用した相互利用システム
- 参加機関: 1,107機関
- 複写: 42万件
- 貸借: 8万件



システム調達に係る現在までの経緯

- これからの学術情報システム構築検討委員会から，2015年5月29日付【これからの学術情報システムの在り方について】公開

- 「本委員会の当面の課題」

- ◆電子情報資源のデータ管理・共有のワークフローの検討
- ◆NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

- 『大学図書館等と国立情報学研究所の連携による取組み』



- ①「当面の課題」を解消するため、『本委員会のもとに検討作業部会を設置』
- ②『ライセンスされた電子リソースの確保を強化する「大学図書館コンソーシアム連合」，大学の研究成果の発信システムを強化する「機関リポジトリ推進委員会」とともに課題の解決に向けた具体的な取り組みに着手』

『大学図書館等と国立情報学研究所の連携による取組み』①

• 2つの検討作業部会を設置

① NACSIS-CAT検討作業部会（2015年7月1日-2019年3月31日）

- NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化に関する基本方針案について検討
- 最終的に、2018年10月19日付【NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）】公開, いわゆる“CAT2020”へ
 - ◆ 事前システム登録
 - ◆ 所蔵登録時の書誌データの自動移行
 - ◆ 出版物理単位での書誌作成
 - ◆ 書誌並立の許容
 - ◆ CAT2020 移行日前に作成の書誌データとの共存
 - ◆ 参加館間のレコード調整の廃止
 - ◆ 並立書誌データの自動同定・グループ化(RELATION テーブルへの登録)
 - ◆ 典拠データの自動リンク形成



『大学図書館等と国立情報学研究所の連携による取組み』②

• 2つの検討作業部会を設置[承前]

② 電子リソースデータ共有作業部会（2015年4月1日-2019年3月31日）

- 「電子情報資源への適切な対応のための資源(人的資源, システム資源, 経費を含む)の確保のために, 書誌作成と書誌管理作業の軽量化を図るために電子リソース管理業務の改善方策を検討
- 最終的に, 2018年3月28日付【電子リソース管理システムの利用可能性の検証について(2017年度最終報告)】公開
 - ◆ ProQuest 社360 Resource Manager Consortium Edition を使用したワークフロー検証を行ったが, 各図書館での電子リソース管理業務の効率化や利用者サービスの向上に関し有効性を確認したものの, コンソーシアム事務局と会員館のデータ共有に関し, 必ずしも JUSTICE 等を通じて行われている日本の契約モデルと適合しない部分があることが判明
- また, 2019年1月25日付【電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討(2018年度報告)】公開
 - ◆ 引き続き, Ex Libris 社の Alma を利用した電子リソース業務のワークフロー検証を行い, Almaではより業務改善が見込まれることが明らかとなった。



これからの学術情報システムの在り方について(2019)(1/3)

- 2つの検討作業部会からの答申を受け, これからの学術情報システム構築検討委員会から, 2019年2月15日付【これからの学術情報システムの在り方について(2019)】公開
- 『これまでの検討』
 - 統合的発見環境の整備を具体化するために
 - 国レベルで整備する中央システムと各機関が運用する図書館システムが相互に連携し, 電子情報資源・印刷体それぞれの管理・運用に必要なデータを統合的に利用可能とするシステム環境(つまり, 現在の目録所在情報サービスの枠組みを拡張した新たな図書館システム・ネットワーク)の構築が必要



これからの学術情報システムの在り方について(2019)(2/3)

- 『これまでの検討』[承前]
 - 近年ではクラウド等の技術進展や電子情報資源・印刷体を区別なく扱うことのできるシステムの登場によって、統合的発見環境を実現する選択肢が広がっていること、システムの共同調達・運用によってこの新たな図書館システム・ネットワークを実現し、各機関でのコスト削減と運用強化を図る新たな可能性がある
 - 同時に、その整備にあたっては、従来の NACSIS-CAT/ILL が提供する印刷体を中心とした書誌情報の供給及び資源共有の機能を維持しつつ、各機関がより豊かな機能(電子情報資源のワークフローをサポートする機能や、電子情報資源と印刷体のワークフローが一体となったシステム、電子情報資源も含めた ILL 機能等)を選択的に導入できるシステム構築を目指す

これからの学術情報システムの在り方について(2019)(3/3)

●『進むべき方向性』

- ① 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークの構築
- ② 持続可能な運用体制の構築
- ③ システムの共同調達・運用への挑戦
- ④ メタデータの高度化
- ⑤ 学術情報資源の確保

●『検討体制』

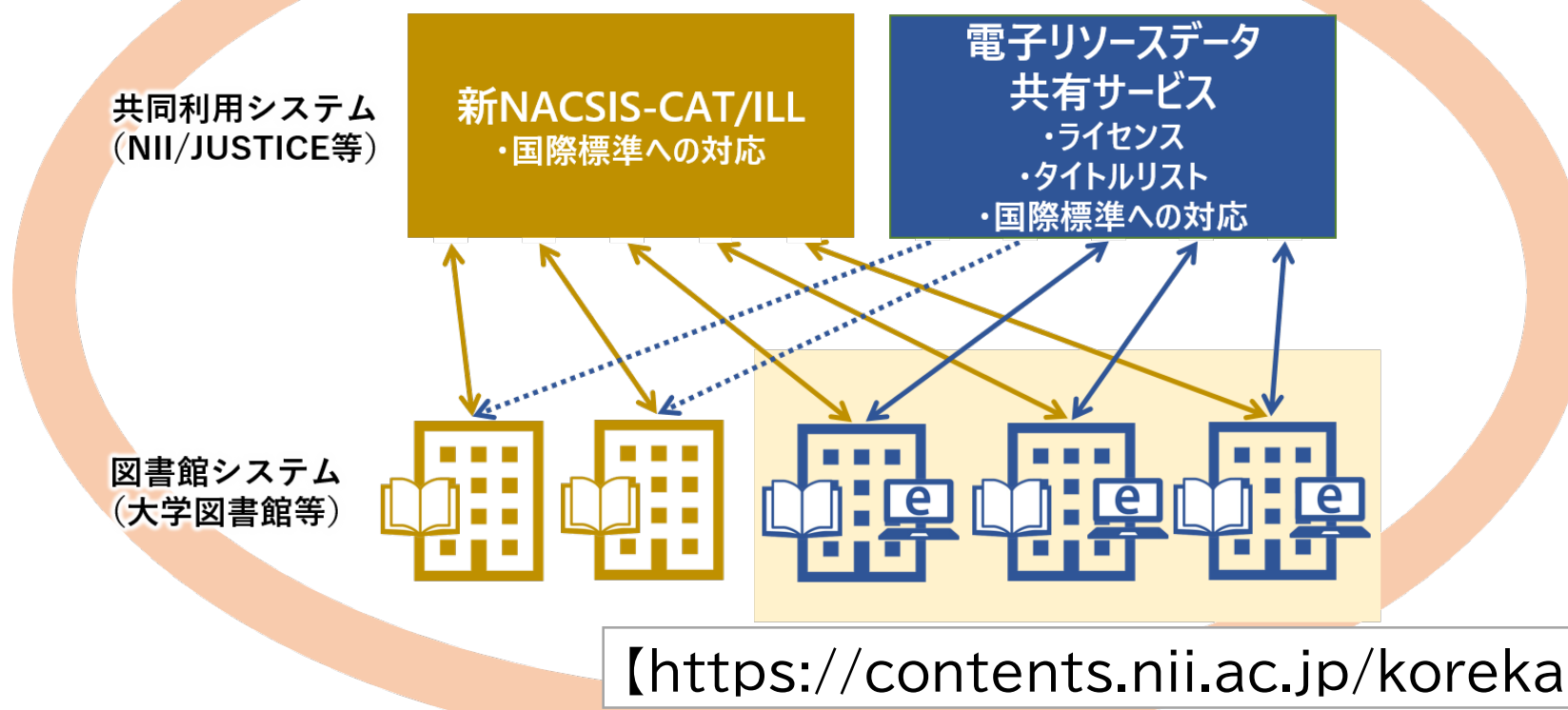
- ① 本委員会の下に, 上記課題に対応した新たな検討体制を組織
- ② ライセンスされた電子情報資源の確保を強化する「大学図書館コンソーシアム連合」, 大学等の研究成果の発信システムを強化する「オープンアクセスリポジトリ推進協会」とともに課題の解決に向けた具体的な取り組みに着手
- ③ 大学図書館の各協(議)会等及び関係諸機関と一層の連携

「図書館システム・ネットワークプロジェクト2022」

- 【これからの学術情報システムの在り方について(2019)】を受け, 国立情報学研究所は, 「進むべき方向性」に則り, 【図書館システム・ネットワークプロジェクト2022】を立ち上げ, システム調達へ
- 「2022年度目録所在情報サービス(以下NACSIS CAT/ILL)の再構築」(共同利用システム(新NACSIS-CAT/ILL、電子リソースデータ共有サービス等)などの取り組み
- 今後に向けた、メタデータの高度化(日本目録規則2018年版(NCR2018)対応等)
- 学術情報資源の確保(デジタルアーカイブ対応について)、共同調達・共同運用やそれを支えるコミュニティなどの情報を発信

紙資料の管理+電子リソース管理の世界へ

図書館システム・ネットワーク（大学等）



印刷体に対応したシステム



電子リソースと印刷体に対応したシステム



将来の共同調達・運用が検討されている領域



データ連携 (CATP)



ダウンロード利用等



相互のデータ連携等

CAT/ILLリプレイス&電子リソースデータ共有サービス説明会

新システムへの移行と課題

- [サービス名称はいずれも仮称]
 - 【これからの学術情報システムの在り方について(2019)】を踏まえ, 国立情報学研究所は政府調達(総合評価落札方式)にて新しいシステムを調達
 - 2022年4月1日から2026年3月31日までの4箇年間
 - 株式会社紀伊國屋書店さまが落札
-
- ◆ NACISIS-CAT/ILLは, 「新NACISIS-CAT/ILL」へ
 - OCLC社のCBS
 - CATPを維持, 操作感是不変となるようシステム開発
 - ◆ 電子リソースデータ共有サービスは, 新規導入
 - ExLibris社のAlma
 - 参加館にAlma導入を強制するものではない

新システムへの課題

◆総合

- 「新NACSIS-CAT/ILL」と電子リソースデータ共有サービスのコンテンツの融合
- 融合したコンテンツの公開方法
- 「各機関がより豊かな機能を選択的に導入できるシステム構築」ができているかの確認
- サービス名称の決定

◆「新NACSIS-CAT/ILL」

- いわゆる国際標準へのキャッチアップ
- CATPをいつまで続けるか

◆電子リソースデータ共有サービス

- 参加機関の負担を抑えたコンテンツ増加の方策
- 実証実験からのfeedbackをどうしていくか

ご静聴ありがとうございました

続けて、
村上・三村からご説明いたします

uemura@nii.ac.jp